

辻邦生山荘の軽井沢

軽井沢高原文庫は、軽井沢にゆかりの深い近代文学者の資料を収集・保存・公開するなどの目的で、1985年に塩沢湖畔に開館したささやかな文学館です。

当館はこれまで、年4回ほどの展覧会や、堀辰雄1412番山荘や有島武郎別荘“浄月庵”、野上弥生子書斎の移築保存、高原文庫の会や高原の文学サロンなどの催し、立原道造詩碑や中村真一郎文学碑の建立などを行っております。

2012年、当館理事だった辻邦生先生の軽井沢山荘を辻家からご寄贈頂きました。辻夫人の辻佐保子先生(お茶の水女子大学名誉教授)がご逝去された翌年のことです。

辻邦生山荘は、辻夫妻の仕事場として1976年に建てられました。設計は磯崎新氏。辻さんは、亡くなるまでの24年間、四季折々、ここで長編小説などの執筆を続けられたのでした。

ご夫妻の書斎が建物2階の両翼に配され、西に開いた大窓から周囲の森と浅間山が眺望できるという素晴らしい場所です。

辻さんは、岬の先のような、しかも下が崖になっている所に住みたいというのが理想だったそうで、そこは似た地形で、ここいいねと、山荘を建てる前から気に入っていたと、辻夫人の話です(「軽井沢高原文庫通信」75号)。エッセイ「風のトンネル」などには山荘をとり囲む自然の様子が生き生きと描かれています。

辻夫妻は軽井沢で、執筆の傍ら、隣人の磯崎新・宮脇愛子夫妻をはじめ、北杜夫、福永武彦、中村真一郎、加藤周一、水村美苗といった文学者、学習院大学の同僚の先生らと交流を深めていました。私も個人的な思



平成 21 年 (2009) 頃 山荘の辻邦生の書斎 (撮影: 筆者)



い出がありますが、辻先生はいつもやさしく、紳士でした。

当館は、2009年夏、「没後10年 辻邦生展～豊饒なロマンの世界～」を開催しました。天皇皇后両陛下(当時)のご訪問という栄誉にもあずかり、辻夫人にご案内頂きました。

なお、当館は2014年から年複数回、辻山荘を特別公開し、見学会を行っています。今年で6年目、計17回を実施。毎回、全国各地から辻文学の愛読者の方をお迎えし、大変喜ばれています。

辻邦生山荘は書斎や調度など当時のままの状態を保っています。類い稀な作家辻邦生の創作現場を後世に伝える貴重な空間であり、大切に保存してまいりたいと考えております。

(軽井沢高原文庫副館長・大藤敏行)

「辻邦生生誕100年記念事業」

のお知らせ

小説家 辻邦生(1925-1999)は、執筆と並行して約35年間にわたり学習院大学でフランス文学を教えました。史料館では、生前より辻と交流を持ち、執筆活動に関わる資料(自筆原稿、創作ノート、日記、書簡、蔵書、愛用品など)約4万点の寄贈を受け、文学研究に資するため、整理を進めています。また展覧会や講演会を設け一部の資料の一般公開も行っております。



昭和 49 年 (1974) 練習帆船“日本丸”にて

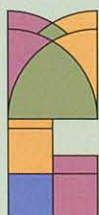
来春には辻が18年余り過ごした所縁の地、国分寺で文学講座も予定しております(恋ヶ窪公民館主催、講師:高橋裕子「辻邦生、その美術への眼差し」)。

この度、2025年に辻の生誕100年を迎えるにあたり、文学の枠を超え美術、音楽、映画など様々な分野の委員で構成した「辻邦生生誕100年記念事業組織委員会」を立ち上げました。名誉委員として辻邦生・佐保子夫妻と深くご親交のあった評論家・詩人の粟津則雄氏、小説家・精神科医の加賀乙彦氏、美術史家・美術評論家の高階秀爾氏のお三方をお迎えしております。また、辻邦生小委員会では長きにわたってご助力くださった故・高橋英夫氏の後任としてドイツ文学者の小塩節氏が委員に着任されました。今後、他機関とも連携し、書くことに情熱を傾け続けた辻の足跡をご覧いただけるような企画を考えております。

(辻邦生生誕100年記念事業組織委員会委員・学芸員 富田ゆり)

ミュージアム・レター 第42号

令和元年(2019)12月20日発行
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
電話 03(5992)1173
FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>